

これからを生きる若者にとって

授業巡視の時でした。三年生の英語の授業をやっている教室から、結構なスピードの英語スピーチが聞こえてきました。声の主（ぬし）は生徒でも教師でもありません。補助教材として録音された、ニュースを読むアナウンサーの声でした。

教科書の本文なら国語科の私でも何とか聞き取れることではありますが、聞こえてきた英語は、内容も速さも教科書レベルではありませんでした。ところどころに聞き覚えのある単語が出てくるのがわかるぐらいで、内容が理解できるまでには何回も聞かなければならないほどでした。

校長室にもどってから、私は新学習指導要領を見てみました。その中の「外国語科の目標及び内容」の「聞くこと」の中に、次のように書かれていました。

「はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。」

さらに、その後の説明欄には、具体的に書かれていました。「『社会的な話題』とは、社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことで、具体的にはエネルギー問題や国際協力などが考えられる。」

学習指導要領は、学校教育の根幹となるものです。教科書はこれをもとに作られますし、学校教育はこれに沿って進められます。十年に一度改定されるものです。

なぜ改定されるのか：それは社会が変化しているからです。グローバル化、急速な情報化や技術革新など、社会の変化を見すえて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質や能力について見直されるからです。

つまり、これからの世を生きていく若者は、英語のニュースを聞いて「何を言っているのかさっぱりわからない」と聞き直ったりあきらめたりしているはいけないということだと思います。考えてみればそうですね。今の世の中、外国人はどこにでもあります。街中には英語の看板やチラシがあふれています。電車の中でも外国語の車内アナウンスが流れています。若者が好む曲を聞いても、必ず横文字が入っています。じわりじわりとですが、グローバル化は確実に進んでいます。

私事で恐縮ですが、中学から英語嫌いの二男は、某鉄道会社に就職しました。以前彼の部屋で、鉄道マンとして身に付けるべき英語のテキストをみつめました。本の傷み方からいって、かなり必要に迫られているように感じました。

避けては通れないですね。日本で、日本人とだけ付き合って一生を過ごすことなど、これからはあり得ません。みなさん、今の若者には、英語はどの分野においても必須のツールのようですよ。